

住民主体のまちづくり

No.12 2014. 11

編集発行：車尾地域づくりモデル検討会

■車尾地域づくりモデル検討会は、かねてより助言を受けている首都大学の杉教授を迎えて、先日これまでの取り組みを紹介し、助言を受けました。

概略を掲載します。

●組織について

まず26回も検討会を開催された、この積み重ねは素晴らしいことだと思いますので、自信を持って地域づくりに取り組んでいただきたいと思います。

そしてこの地区にとって、どういう意味があるかをしっかり考えることが重要です。その中で、どうしても行政側からしてみれば新しい仕組みづくりを考えているということがありますので、組織づくりについては、既存の組織をきちっと振り返ることが重要だと思っています。まず、そのことがどこまで出来ているのか、これから先どう考えていくのか、などから話しを始めていることは、皆さんがこの先活動を進めていくうえで、やり易いと思いますし、地に足の付いたやり方だと思っていますので、これは素晴らしと思います。

●地域カルテ

よく一般的に地域のまちづくりを考える時に、地域カルテというものを作ったりすることがあります。まず自分達の地域のことをよく知らなければならぬということがあって、1つは地域資源という言葉が出ましたが、自分達の地域とはどんな地域なのか。自然、歴史、文化などとありますが、そういうことをもう一度見つめ直すことが重要で、これまでも少し忘れられていることや、人口構成でも小中高生が多くなったことで、この車尾の由来も知らない住民が多くなったということです。そういったことも含めて、もう一度地域資源を発掘し、また伝わってきたものはきちっと継承し、さらに発展さ

せていくという地域資源を見直そうということが非常に重要な取組みとなります。

●人・心・自然

地域資源と共に人づくり、表現は違いますが人・心・自然の要素にまとめあげられると思います。この3つくらいに集約されていると思います。この地域資源をしっかりと見つめ直して、必要なものは再発掘し、さらに磨きをかけていく。もう1つは人づくり、それに合わせて組織づくりというものも、これらを合わせて仕組みとも言いますが、考えていかななくてはけません。これのどれが欠けても地域づくりを盛り立てていくことは難しいです。最近よく過疎の地域でも人口が増えだしたとか、こういうところでもがんばっているということで、よく取り上げられるのは、この3つがバランスよくきっちり捉えられているからです。

●情報発信

いま車尾では、検討会と分科会のようなものをつくって検討されている訳ですが、今多くの方が関わりをもって検討されているのでしょうか。これをもっと広げていけるかどうか、作りあげたものをこの地域の7000名、2800世帯の人々にどれだけ伝えていけるのか。既に住民アンケートはほぼ全世帯に配布して行っておられますよね。回収率は少し低かったのですが、そういった試みをされているので、この地域カルテについても、この先のことについてもきちっと住民に伝えて、意見が戻ってくるぐらいの取組みをしていただければ、この地域のモデル事業として、具体的な活動をやっているのですよ。これ自体が1つの活動です。ですからまだ何もしていませんということもなくて、実はここもしっかりやっていくことが重要です。



自分たちのまちは 自分たちの力で